

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成20年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
271	B-07013331	男性	23歳	150 mg		異常行動	回復	インフルエンザ陽性に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。服用開始5～6時間後（夕方）に急に玄関に飛び出し、玄関前にてぼんやりと立ってぼんやりしている所を親が発見した。その後、意識は回復。患者はその事を覚えていないとのこと。	異常-243	
272	B-07003186	女性	24歳	150 mg		異常行動 感情不安定	回復 回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。服用後、熱がさがった。 投与開始2日目、元気になった。夜、異常行動、感情失禁発現。吐き気あり。気分が高揚し、走り出したい気分となり、何をみても笑いが止まらない状態となった。自制しようとする意識もあるが、走り出したい自分を止められず、家族に助けを求める。発現1時間後、大声で笑いが止まらない。そのうち笑いが止まらないことに対して泣き出す。見当識障害多少あり。 投与開始3日目、朝、ほぼ元通りの人格に戻った。	異常-244	
273	B-06025316	男性	26歳	150 mg	クラリスロマイシン リン酸ジメモルファン 塩化リゾチーム アセトアミノフェン ジクロフェナクナトリウム	自殺企図	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用後、異常行動（自殺企図：マンションの渡り廊下に登ろうとする。何かにおびえた様子で「死んでから謝ろうと思った」と発言）発現。 落ち着いてから話をすると自分のとった行動に記憶があり、当時不安になるような心当たりはまったくないとの由。 翌日、約2時間後に再び異常行動。	異常-245	
274	B-03001089	男性	28歳	75mg	クラリスロマイシン セラペプターゼ 消化酵素 耐性乳酸菌	気分変動	回復	発熱、咳、咽頭痛等有り受診、A型インフルエンザと診断。治療目的にてリン酸オセルタミビル投与。本剤投与10分後、気分変動有り、何をするか分からない（例えば刃物を振り回すかもしれない）感じがした。玄関の辺りでドアを蹴飛ばしたりした後、倒れていたため、救急搬送される。病院にて処置を受けた後帰宅。その後、症状回復。	異常-246	
275	B-07001666	男性	30歳	150mg	アモキシシリン	異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。 服用3日目、寝ていていきなり起き上がり包丁を持つ。 服用4日目、寝ていていきなり、道路に飛び出した。 服用5日目、本剤服用中止。 中止1日後、意識清明。	異常-247	
276	B-06025192	男性	32歳	75 mg	葛根湯 ロキソプロフェンナトリウム	異常行動	回復	発熱あり。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服薬4時間後に錯乱状態となり、自宅2階から飛び降り、足を骨折。 骨折のため、他院を受診、その際意識もはっきりしており、体温も36℃台であった。 4日後、整形外科で手術。 入院中、意識レベル正常、異常行動回復。	異常-248	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成20年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
277	B-06026629	女性	32歳	150 mg	維持液(3) アスコルビン酸 スルピリン・アミノプロピロン配合剤 フルスルチアミン 塩酸リンコマイシン	意識消失 健忘 脱毛症	回復 回復 軽快	リン酸オセルタミビル服用3時間後、夜目が覚めて気がついたらトイレに行っていた。その間の記憶がない。	異常-249	
278	B-07013314	女性	32歳	150 mg		幻覚	回復	インフルエンザに対して(体温は39~40℃)で、リン酸オセルタミビルを服用開始。同日夜、幻覚がみられた。(階段をかけ下りる。)服用3日目、口内炎が発現。本剤中止。その後、幻覚は回復。	異常-250	
279	B-03000831	女性	35歳	150mg	アセトアミノフェン 安息香酸ナトリウムカフェイン 開始液 セフボドキシムプロキセチル 塩化リゾチーム dl-マレイン酸クロルフェニラミン サリチル酸ナトリウム 鎮咳剤 アスコルビン酸・L-システイン カルボシステイン	不安 知覚過敏	回復	発熱(38~39℃)、頭痛、関節痛、咽頭痛、咽頭発赤、不穏状態にて本剤投与開始。 翌日の夜中、不眠、不安発現。服用中止。 翌日、幻覚発現し、来院。その後も興奮状態続き、知覚過敏が発現。その2日後、不眠、不安、興奮状態、知覚過敏、幻覚は次第に消失。その5日後、回復	異常-251	
280	B-06026663	女性	40歳	150mg	炭酸リチウム パルプロ酸ナトリウム エチゾラム ロフラゼブ酸エチル マレイン酸フルボキサミン	不思議の 国のアリ ス症候群	回復	インフルエンザB型と診断。リン酸オセルタミビル75mg投与後比較的早く、浮遊感が出現。マンション4階に居住しているがベランダから下をみるとあたかもすぐ近くに地面があるかの如く錯覚あり。 鳥の姿がみえるなどの幻視もあったが夫に止められ事なきを得た。	異常-252	
281	B-06026707	男性	45歳	150mg	レバミピド セラペプターゼ ヒベンズ酸チペビジン 塩酸エピナスチン	意識変容 状態	回復	A型インフルエンザの診断にて、リン酸オセルタミビル150mg/日処方。歩行中、自分の前後の記憶が一部飛んでるのに気付く。また、踏切の遮断機がおりているのに気付かず、踏切板が頭に当たって恐怖を感じる。	異常-253	
282	B-07000244	女性	48歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン 鎮咳配合剤(1) ジクロフェナクナトリウム 酢酸リンゲル液(ブドウ糖加)(2-2)	錯乱状態	回復	インフルエンザAと診断。午後よりリン酸オセルタミビル服用開始。投与4日目、朝から何度も外出しようとして家族に連れ戻される。午後より、訳のわからないことを言いはじめる。投与5日目、錯乱状態。	異常-254	
283	B-06004486	男性	49歳	150mg	非ピリン系感冒剤 アスピリン ヒベンズ酸チペビジン リン酸ジメホルファン プラノプロフェン 塩酸セトラキサート	死亡	死亡	期外収縮及び心房細動の患者。発熱、咳、鼻症状、関節痛及び倦怠感があり、インフルエンザの疑いで、リン酸オセルタミビルを服用開始(併用薬は左記のとおり)。服用3日目の夜、家人に気づかれぬまま車で外出。自宅より30km離れた海の岸壁で車が発見され、人が海に落ちた形跡あり。約2ヶ月後、海中より死亡した本人が発見された。	異常-255 死亡-36	
284	B-06028847	男性	49歳	150mg	酒石酸ゾルピデム	自殺企図	回復	1日分処方1週間後、自殺未遂。首をつろうとしていたのを家族が発見。自殺未遂前に本剤内服していたかは不明。	異常-256	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成20年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
285	B-05025724	男性	51歳	75mg	アセトアミノフェン アミノ酸・糖・電解質(2-3)	精神症状 自殺既遂	不明 死亡	肺結核後遺症に伴う慢性呼吸不全に感冒を合併し入院。経過は良好であったが入院7日目に院内でA型インフルエンザに感染。18時頃、両下肢のしびれ感などの合併があり、将来の健康に関して全般的不安を訴えていた。19時頃に本剤服用開始(体温39.2℃ありアセトアミノフェンを本剤とともに服用)。22時の体温は37.3℃。翌朝5時に生存を確認。6時30分病床不在確認、7時39分飛び降りて死亡しているのが発見された。自室のノートに遺書有り。	異常-257 死亡-38	
286	B-07000264	男性	51歳	150mg	ジクロフェナクナトリウム アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン	意識変容 状態	回復	インフルエンザ検査陰性。リン酸オセルタミビル投薬。夕方、本剤、ジクロフェナクナトリウム服用後、しゃべりにくくなり、また身体が痛く動けなくなる。夜中、他院に受診。インフルエンザ検査陰性。以後本剤服用せず。車で移動中に車から道路に出ようとした。	異常-258	
287	B-07000076	男性	54歳	75mg	スピロラクソン レボチロキシナトリウム ニフェジピン 塩酸ジルチアゼム フロセミド	異常行動 譫妄 腎不全	不明 不明 不明	インフルエンザ罹患3日前、糖尿病により右足を形成外科にて手術を受ける。入院。 高熱あり。診断キットにてインフルエンザA陽性のため、リン酸オセルタミビル75mg1日2回服用。 夜、ベッドから降りベッドの柵に頭を何度も打つ、その後、部屋から出ようとし看護師に制止されるが暴れまくる。 後に意識が回復し看護師が暴れていたことを伝えたとこ当時の記憶はなかった。 服用開始3日目、本剤投与後再度、異常行動、せん妄がみられベッドの上に立つ等の行動があった。CTにて脳出血等の異常なし。腎不全の疑いもあり。異常行動はジアゼパムで鎮静。	異常-259	
288	B-05020017	男性	56歳	150mg		精神症状 (精神症 状)	回復	インフルエンザ治療目的としてリン酸オセルタミビル投与。本剤服用4日目、夜分服用し2時間後に精神症状発現。突然うつ状態になり、自殺したくなる。窓から飛び降りたくなる衝動にかられる。翌日、精神症状回復したが、本剤服用を自発的に中止。	異常-260	
289	B-05024386	男性	58歳	150mg	アミノフィリン リン酸ベタメタゾンナトリウム フロモキシセフナトリウム 維持液(3) プロピオン酸フルチカゾン テオフィリン 塩酸フェキシフェナジン ファミチジン	意識変容 状態 呼吸困難	回復 回復	A型インフルエンザの確定診断を受け、リン酸オセルタミビルを投与開始初日の夕方と就寝前に服用。投与開始から2日目の午前5時に呼吸苦が発現し、暴れ出した。また、意識障害が発現した。呼吸苦は発現当日に回復し、意識障害は発現翌日に回復した。	異常-261	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成20年3月31日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
290	B-07000263	男性	58歳	150 mg	酒石酸ゾルピデム 鎮咳配合剤(1) ロキソプロフェンナトリウム デブレン 乳酸リンゲル液(マルトース加) アセトアミノフェン	意識変容 状態 譫妄	回復 回復	B型インフルエンザと診断し、乳酸リンゲル液、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン処方。夜、本剤服用2~3時間後、就寝。服用2日目、朝、本剤服用中止。起床1時間後、意識障害、せん妄発現。患者より、本人の言動がおかしい(知らない人がここにいるとか、何か見るとか幻視がある)との連絡有。起床3時間後、来院。全身の脱力感とせん妄状態あり。沈静目的でフェノバルビタール投与するも改善しないため、一過性の脳虚血発作を疑い、検査入院依頼。結果、脳虚血発作の可能性は薄いとのこと。昼過ぎ、点滴除去や院内より脱走する様な異常行動あり、脳外科へ転科。インフルエンザは回復。服用から3日目、意識障害、せん妄回復。	異常-262	
291	B-06025002	男性	59歳	150 mg		異常行動	未回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。異常行動発現。本人に記憶なし。本剤投与中止。本剤服用5日後、症状は回復傾向であるが、異常行動未回復。	異常-263	
292	B-07019905	女性	60歳	150 mg		異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用後、睡眠中に目の前が真っ赤になり、火事だと思い、家から飛び出した。また、菊の花が見えて、それを取ろうとすると花が前にすすんで取れない。このような状況で怖くなり、なるべく寝ないようしていた。		2007/10/1以降 新規報告
293	B-07018337	女性	61歳	75 mg	トリクロルメチアジド ロサルタンカリウム ベシル酸アムロジピン メシル酸ベタヒスチン 2339224 アルプラゾラム 酸化マグネシウム ウルソデスオキシコール酸 ファモチジン ポリエンホスファテジルコリン	異常行動	回復	関節痛、鼻炎症状、発熱のため受診。A型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤1回目服用後、横断歩道にて待機中、信号は赤であるにも関わらず、ふわっとした感じで飛び出してしまいそうになった。車のクラクションを鳴らされ、無事であった。		2007/10/1以降 新規報告
294	B-06025118	男性	64歳	150mg	塩酸アミトリプチリン アロプリノール 沈降炭酸カルシウム アスピリン オメプラゾール マレイン酸エナラプリル ベシル酸アムロジピン アルファカルシドール ポリステレンスルホン酸カルシウム	精神状態 変化	不明	合併症としてうつ病、慢性腎不全あり。発熱(39℃)、倦怠感あり、インフルエンザAと診断され、リン酸オセルタミビル投与。翌日中、ぼんやりして立ちつくす。夜、不眠、じっとしていられず動き回る。投与3日目、本剤服用中止(計5カプセル服用)。服用終了後5日目、落ち着かない様子あり。服用終了1週間後、「死にたい」、「殺してくれ」と言い、落ち着かない。服用終了10日目、体調不良を訴える。36.5℃の熱。ボーとしているが、落ち着かない印象あり。夕方、灯油をまき、自殺するつもりでマッチで火をつけたが、すぐに消火され保護される。	異常-264	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成20年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
295	B-05018850	女性	67歳	150mg	インフルエンザHAワクチン 塩酸パロキセチン フルニトラゼパム 酒石酸ゾルピデム 塩酸フロキシフェン アセトアミノフェン	劇症肝炎	不明	2日前、インフルエンザワクチン接種。 発熱、咽頭痛より、インフルエンザを疑い本剤5日間投与。 投与終了1日後、急性肝炎疑いで入院。 投与終了5日後、ベットより飛び降りたり、大声で叫ぶ。血漿交換のため 転院。	異常-265	
296	B-06001534	男性	71歳	150mg	塩酸プラソニン メチルドパ ロラタジン ヒベンズ酸チベピジン 非ピリン系感冒剤(4) 塩酸セトラキサート 鎮咳配合剤(1) セネガ	平衡障害 異常行動	回復 回復	A型インフルエンザで発熱(38.0℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から約2時間後に平衡機能障害が発現し、約5時間後に回復した。初回服用から約5時間後にリン酸オセルタミビルを服用し、約2時間後に異常行動(田植えをしている動作)が発現し、約24時間後に回復した。	異常-266	
297	B-06017551	女性	71歳	150mg	アミノフィリン アジスロマイシン水和物 モンテルカストナトリウム プロチゾラム 塩酸クレンプテロール ファミチジン チアマゾール ブドステイン プレドニゾロン アセトアミノフェン	譫妄	回復	喘息、甲状腺腫の既往歴あり。気管支喘息のため入院後、アミノフィリン、プレドニゾロン投与後、アジスロマイシン水和物を処方。発熱があり、インフルエンザAによりリン酸オセルタミビルの投与開始。4日後夜、失禁、夜間せん妄発現。翌日朝以降症状なし。5日後まで投与継続、インフルエンザ回復。	異常-267	
298	B-05000692	男性	72歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン	痙攣 意識変容 状態	回復	38℃の発熱と咳嗽により受診、インフルエンザBと診断され、リン酸オセルタミビルを4日間投与。突然大きないびきと共に暴れ出す。意識障害と痙攣、全身間代性発作発現。7分後発作消失。意識は約1日半後清明となる。高CK血症、GOT、LDH上昇あり。	異常-268	
299	B-05000875	男性	72歳	150mg	エスタゾラム トリアゾラム 酒石酸ゾルピデム ブロムワレリル尿素 エチゾラム ジアゼパム ワルファリンカリウム 塩酸チクロピジン 塩酸メホルミン マレイン酸トリメプチン シルニジピン	譫妄(せん妄)	回復	脳梗塞、胃痛、不眠症、糖尿病、高血圧の既往症。39℃の発熱があり受診、インフルエンザBと診断され、リン酸オセルタミビルを投与。当日解熱したが、夕食後本剤を服用、同時に常用薬の眠剤も服用。その後せん妄が発現。部屋を引っかき回したように荒らしている。翌朝にはせん妄は回復。解熱まで眠剤の服用を禁止し、本剤と他の薬品の服用時間をわずらずよう指示したところ発現せず。	異常-269	
300	B-05024268	不明	74歳	150mg		異常行動 大腿骨骨折 幻覚	未回復 未回復 不明	A型インフルエンザで発熱(39.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの投与開始。投与開始当日に異常行動が発現した。投与開始から3日目にインフルエンザが軽快し、リン酸オセルタミビルの投与が終了した。投与終了翌未明、徘徊。投与終了後から2日目に2階より飛び降りて大腿骨を骨折した。	異常-270	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成20年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No.	備考
301	B-02013397	女性	79歳	150mg	硝酸イソソルビド バルサルタン オメプラゾール 酸化マグネシウム トリアゾラム センノシドA、B センノシド 塩酸パロキセチン水和物 マレイン酸レボメプロマジン	妄想 落ち着きのなさ	軽快	被害妄想顕性化のため入院加療、抑うつ神経症の診断あり。インフルエンザ感染症を疑い、リン酸オセルタミビル150mg/日5日分を処方。投与3日目未明、意味不明語、妄想、不穏、徘徊あり。他剤投薬により少しずつ精神状態安定化。本剤継続。本剤5日間の投与終了後、3日目に症状軽快し、経過観察中。	異常-271	
302	B-06016893	男性	83歳	150mg	テオフィリン コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム アミノフィリン 維持液(17)	譫妄	回復	慢性腎不全、洞不全症候群、脳梗塞の治療継続中。ペースメーカー留置。発熱、呼吸苦、低酸素血症、炎症反応によりインフルエンザ確定診断を実施。入院後、点滴(コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム、アミノフィリン)及びリン酸オセルタミビルを投与開始。2日目、落ち着きがなくやや興奮気味、せん妄発現、点滴投与中止。3日目夕方よりリン酸オセルタミビル投与中止後、ハロペリドール投与(3日間)。4日目せん妄回復。以降症状なし。	異常-272	
303	B-06025119	男性	83歳	150mg	オルメサルタン メドキシミル ベシル酸アムロジピン リン酸ジソピラミド アスピリン ワルファリンカリウム 塩酸ドネペジル レボプロキサシン ロキソプロフェンナトリウム	異常行動	回復	発熱38.2℃。A型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル投与開始。本剤投与開始3日目、昼前まで寝床にいた。異常行動(家をとび出し、軽トラか何かで家の周りを、数週まわっていた)出現。その後、除草剤を飲んだ。夜、嘔吐とけいれん出現。意識消失。インフルエンザ軽快・回復。	異常-273	
304	B-03008735	女性	85歳	150mg	乳酸リンゲル液 医療用酸素	全健忘	回復	上咽頭粘膜のインフルエンザA抗原陽性と診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与3日目まで有害事象発現せず。最終投与後未明に失見当識及び病棟内徘徊(但しミオクローヌスはなし)。翌朝も記憶力低下が観察される。患者家族と相談の結果退院後、処置なしで回復。但し、有害事象継続中の記憶は欠如のまま。	異常-274	
305	B-05024865	男性	85歳	150mg	アスピリン 酒石酸イフェンプロジル 塩酸タムソロン ヒトインスリン(遺伝子組換え) 非ピリン系感冒剤(4) 臭化水素酸デキストロメトルファン スバルプロキサシン ジクロフェナクナトリウム	譫妄	回復	A型インフルエンザで発熱(38.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から2日目にインフルエンザが軽快・回復した。投与開始から3日後にせん妄(窓を開けて外へ出るなど)が発現し、せん妄発現から3日目の朝にせん妄から回復した。	異常-275	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成20年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
306	B-04027261	女性	90歳	150mg	セフトリアキソンナトリウム レボチロキシナトリウム 硝酸イソソルビド アロプリノール 酸化マグネシウム センノシド フロセミド メナテトレノン エトドラク 塩酸タムスロシン パンテチン ポリスチレンスルホン酸カルシウム カルボシステイン 鎮咳配合剤(1) 椴皮エキス	譫妄	軽快	慢性腎不全、慢性心不全及び甲状腺機能低下症の既往あり。B型インフルエンザ陽性のため、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与（投与開始翌日より入院投与）。投与開始後3日目、せん妄発現。4日目、意味不明の言動、興奮、職員への暴力あり。5日目、意味不明の言動及び興奮は消失するも、覚醒度不良のためリン酸オセルタミビルの服用中止。投与中止後6日目もつじつまの合わない発語が時々あり。7日目、せん妄軽快。	異常-276	
307	B-05025587	女性	90歳	150mg	クラリスロマイシン レバミピド オキサトミド	幻覚 異常行動	回復 回復	発熱(38.6℃)があり、インフルエンザ患者と2日間の接触があったため、リン酸オセルタミビル及び併用薬処方となる（確定診断は行っていない）。投与1日後に平熱となる。本剤5回服用後の夜中、幻覚症状（大声で幻覚症状を訴える）発現し本剤服用中止。本剤中止3日後に幻覚、異常行動（外へ出て座っている等）は回復。	異常-277	
308	B-05001178	男性	94歳	75mg	ロキソプロフェンナトリウム 塩酸チクロピジン センノシド ニフェジピン	胃腸出血	死亡	慢性腎不全、脳梗塞、便秘、及び高血圧の患者。血液透析を約10年前から施行。インフルエンザA型と診断され、入院。当日の夕方リン酸オセルタミビル75mgを服用（併用薬は左記のとおり）。入院4日目の夕方、不穏な行動あり（少し認知症の気があった）、その後嘔吐（潜血反応+）あり。その3日後の夜以降、下血が続き、深夜、呼吸状態が悪化し、血圧低下、心拍数低下となり、次の日の早朝、死亡を確認。	異常-278 死亡-70	
309	B-07013381	女性	94歳	150 mg	アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン 塩酸ベニジピン カルベジロール レバミピド クエン酸第一鉄ナトリウム アゾセミド アスピリン・ダイアルミネート カンデサルタンシレキセチル 非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン ピレノキシシン	異常行動	回復	インフルエンザA型と診断し、リン酸オセルタミビル服用開始。服用1日目、夜間、訳のわからない発語とともに屋外に出て行ってしまったが、同日、異常行動回復。その後は特に異常行動はなかった。	異常-279	
310	B-07000403	女性	小児	150 mg		異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。3人兄弟全てインフルエンザに感染したが、当患者だけ、家の中を走り回るなど異常な行動が見られた。翌日には回復しており一時的であった。	異常-280	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
 （販売開始（平成13年12月）から平成20年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
311	B-07013378	男性	小児	不明		異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用後、走行中の車からの飛び出し。異常行動発現。	異常-281	
312	B-07000209	男性	青少年	150 mg		異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用後、自分が透明になったなどと2時間くらい暴れる。母親らがしばらく押さえて事なきを得た。なお、患者はもともと精神科に通っている。	異常-282	
313	B-07027776	男性	不明	75 mg		異常行動 出血	回復 不明	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。1日目の2カプセル目を飲んだところまでは記憶はあるが、その後なくなる。朝、ベッドに座っていて、気がつくと手から出血していた。知らない間にトイレのタンクを壊していた。水浸しに気づかず。その後も服用を継続したが、異常行動はなかった。		2007/10/1以降 新規報告